

中央学院大学学長 大久保皓生様のお話し



本日は里山シンポジウムを本学で開催して頂き、大変光栄に思っております。

先程来、各分科会で熱心な討議がなされておりますが、それぞれの経験のなかから得られた尊い議論として大変貴重なものと拝聴いたしております。そこには、自然と人間の共生という大きなテーマが存在しているのではないのでしょうか。

自然と人間の共生という課題は、21世紀の最大の課題であると思いますし、オーバーな言い方かもしれませんが、人類存続に係わるおおきな課題であろうと思います。こうした問題に皆様方が率先して参加され取り組まれているわけでありまして、心からの敬意を献げたいと思っております。そしてまた、本学といたしましてもできる範囲内で協力できれば幸いです。本日のような催しは、21世紀の人々の幸せのためのメッセージであり、次の世代への送りものになってほしいと願っています。

本学は、かねがね、このようなメッセージの発信の場所として、また地域の皆さんへの貢献ということをひとつの使命としてまいりました。昨年は、山階鳥類研究所、電力中央研究所をはじめとして多くの市民団体そ

して市民の皆様とともに手賀沼学会を設立し、そのお世話を致しております。これは、地元我孫子市の財産である手賀沼を、何とか再びきれいな沼にして市民に愛され親しまれる存在として子孫に残していきたいと願って設立したものであります。幸い多くの市民の方々から賛同が得られ、会員になって頂いております。かつては風光明媚な湖として愛された手賀沼をあらゆる角度から見直していくことによって自然の尊さ、そのあり様が見えてくると思っております。

本日、皆様方が論じられておられる里山というものも、手賀沼を愛する心と相通じるものがあると感慨を深くした次第であります。こうした活動を通じて、また私共も参加させて頂き学ばせていただいて、地元の皆様方に少しでもお役に立てることができれば、大変嬉しく思っております。

これからも益々発展されますよう心からお祈りいたしまして、私の挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうも有難うございました